

# 農林水産大臣賞受賞

廃校を活用した都市農村交流と美しい農村を受け継ぐ全員参加型むらづくり

受賞者 たか やま ち く こう みる かん  
**高山地区公民館**  
か ごしまけん ひおきし  
(鹿児島県日置市)

## ■ 地域の沿革と概要

高山地区のある日置市は、平成17年に東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町の4町が合併して誕生した市で、東は鹿児島市、西は東シナ海に面し、薩摩半島のほぼ中央に位置する水と緑に恵まれた所である。

鹿児島市のベッドタウンとして人口が集中する地区がある一方、高齢化率が50%を越え、将来のコミュニティ機能の維持が懸念される地区も多く、その対策として、平成18年から地域の現状に応じた自治会の統合・再編を進め、各小学校区単位に地域づくりの拠点として「地区公民館」を設置し、コミュニティの再生に取り組んでいる。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

高山地区は、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市に接した日置市（旧東市来町）の最北部に位置し、6集落で構成されている中山間地域である。

農業面では、稲作を中心に畜産、いちご、たけのこ等の生産が行われており、標高約300メートルの山間にある尾木場集落には、「野上 休 右衛門」によって明治21年から約45年の歳月をかけて原野から開墾された棚田が広がっている。

現在も集落の田守人によって大切に守り継がれた美しい棚田は、四季折々の風景を求めて多くの見物客や写真家が訪れるスポットになっている。

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落の集合体
地区の性格	地縁的集団
農家率 (内訳)	36.3% 総世帯数 135戸 総農家数 49戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 12戸 1種兼業農家 1戸 2種兼業農家 8戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 1,187ha 耕地面積 14ha 田 9ha 畑 5ha 耕地率 1.2% 農家一戸当たり耕地面積 0.3ha

一方、県道や河川沿いには、平成5年の大水害を機に基盤整備された水田が広がり、担い手への農地集積と地域ぐるみの保全活動を通じて、持続的な地域営農が維持されている。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機・背景

当地区は、昭和50年代に鹿児島県が取り組む「農村振興運動」の優秀集落として地区内の尾木場集落が県知事賞を受賞し、さらに高山地区全体では「新・農村振興運動」の重点地区の指定を受けて地域住民が一体となって課題解決に取り組むなど、長年に渡って活発なむらづくり活動を続けている農村地域である。

高山地区は、高齢化率が約65%であり、日置市の中でも特に高齢化が進んでいる地区であることから、自治機能の集約と共生・協働の地域づくりの実現を目指そうと、平成20年には旧6自治会が合同で「第1次高山地区振興計画」を作成し、分野ごとの課題解決や実践活動に取り組むとともに、平成22年3月には各自治会の連携強化を図るため、6自治会が統合し、現在の「高山地区公民館」が発足した。

### (2) むらづくりの推進体制

地区住民の親睦融和を深め、住みよい地域づくりの実現のため、地区公民館が核となり、主に以下の組織が有機的に連携を図りながらむらづくり活動を展開している。

#### ア 高山地区公民館

公民館長を中心に、各種事業を行う5つの部会（総務部、体育部、青壮年部、婦人部、高齢学級部）で構成され、公民館活動や部会活動の充実及び産業・文化活動の推進に取り組んでいる。

#### イ NPO法人がんばろう高山

平成25年に設立した同NPOでは、「高齢者がいきいきと生活でき若者が定住したくなる魅力的な地域を創り出す」を目標に掲げ、会長、副会長、理事8名の役員を中心に集落全員が会員となり、農山村の振興、保健医療福祉の増進、まちづくり活動の実施等を行っている。

#### ウ 高山ふるさと秋まつり実行委員会

平成14年から始まった「高山ふるさと秋まつり」を企画・運営するため、各集落の代表や委員など約40名で構成される実行委員会を設置し、集落ごとの特徴を生かした体験プログラムの充実や地域住民の役割発揮による高山地区の魅力発信に取り組んでいる。

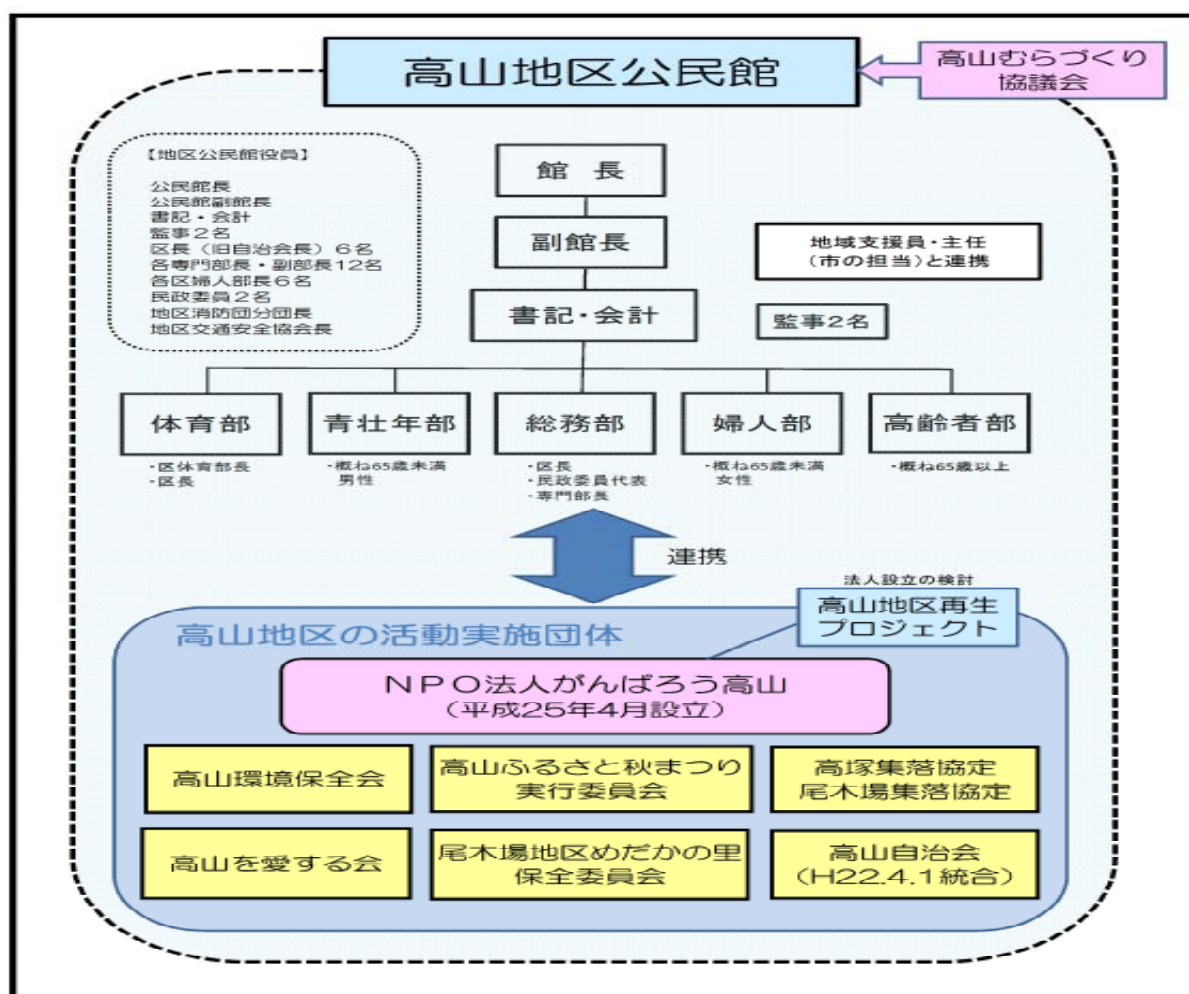
## エ 高山環境保全会

平成25年から、農地・水保全管理支払交付金により、農地・農業用水等の資源の保全管理や環境保全を図る活動に加え、水路・農道等の施設の長寿命化を図る地域ぐるみの保全活動に取り組んでいる。

## オ 高山を愛する会

地区外に居住する地区出身者の故郷への思いから、平成13年に「高山を愛する会」（会員160名）が組織され、地区で開催されるイベント等への参加・協力や活動資金の寄付につながるなど地域活性化に向けた活動の心強い応援団となっている。

第2表 むらづくり推進体制図



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

高齢化の進行や中山間地域の不利な立地条件の中、農業生産活動を基本にした農地保全や美しい景観形成等により多面的機能の発揮が図られるとともに、先人から受け継いだ地域資源を守り続ける意志を共有し、地域住民たちの自主的で持続的なむらづくり活動が展開されている。

また、「NPO法人がんばろう高山」の設立を契機に、地域の課題解決を

図るため、事業内容の拡大や活動の充実が図られるなど、地域住民の連帯感を高め、自主的な努力と創意工夫により農業の振興や住みよい農村の建設に寄与している。

## 2. 農業生産面における特徴

### (1) 受け継がれる開墾の思いと棚田の農業生産活動

尾木場集落には、約120年にわたって受け継がれてきた約60枚の棚田「休右衛門新田」が広がり、その子孫である野上操氏を中心に、先人の苦労と開墾魂を後世に引き継ぐとともに、集落の田守人たちによってその美しい景観が守られている。



写真1 約120年受け継がれる棚田

同集落は世帯数が12戸と少なく、高齢化の進行や農家数の減少により、厳しい生産条件の棚田での農業生産が年々難しくなりつつあった。しかし、平成15年のため池整備事業によるハード面の整備や定年帰農による新規就農者の仲間入り等により農家の生産意欲が高まったことから、近年では耕作放棄地の解消により水稻の作付面積が拡大している。

また、平成25年度からは、耕作者のいなくなった棚田を「NPO法人がんばろう高山」が作業受託することで、集落民だけでなく地域ぐるみで営農が継続できる体制が構築されている。

### (2) 「めだか米」と農業体験交流で農村の価値向上

棚田の用水路には、珍しい在来種のクロメダカが生息していることから、棚田で栽培された米を「めだか米」として、付加価値を付けた販売に取り組んでおり、農業体験や地区イベントでの販売のほか、市内病院との契約販売により毎年完売している。

また、平成16年から開始した「尾木場めだかの里・米作り体験」は、鹿児島市方面などから毎年約20組の家族が田植えや収穫体験などに訪れるなど、今では人気の高い農業体験イベントとして定着している。



写真2 棚田での田植え体験

参加者は、栽培の苦労や収穫の楽しみを実感することで棚田の歴史や農業生産活動への理解を深め、また、地元食材を使った昼食のおもてなしや集落民との触れ合いによって口コミによる参加者の拡大やリピーターの確保など継続的な交流につながっている。

る。

さらに、平成18年には、農林水産省主催の「田園自然再生活動コンクール」において、「尾木場地区めだかの里保全委員会」が、先人の努力を継承した農といのちを育む取組が評価され「美しい郷と営み賞」を受賞した。自然と共生して棚田を守り続ける活動や農業体験受入れなどの活動が評価されたことで、更なる活動への意欲が高まる機会となった。

「めだか米」のブランド化や都市農村交流の継続的な取組により、集落民は地域に対する自信と誇りを持ち、美しい景観と伝統を守り続け、次世代につなぐべき農村の価値の向上に寄与している。

### (3) 体験型プログラムによる農村の魅力発信

旧自治会単位で開催していた交流イベントの継続や、都市と農村の交流で高山地区全体を元気にしようと、平成14年から「高山ふるさと秋まつり」を開始した。

秋まつりでは、地域農産物販売、石釜ピザ作り体験、新米餅つき体験等を行うメイン会場の「高山地区交流センター」を拠点に、集落ごとの資源を活かした体験プログラムを楽しむことができる。

地域の農林水産物を生かした体験として、①棚田の田の神まつり（尾木場集落）②溪流マス釣り大会（郷戸集落）③こんにやく手作り体験（桑木野集落）④かずら作り体験（野下集落）などが企画され、集落民が指導者となって地域に伝わる歴史や技を伝承しながら交流を図り、地区内外から約1,200人以上が訪れている。



写真3 秋祭りでかずら作り体験

また、地域農産物の販売コーナーは、地区内の高齢農家等の出荷や隣接地区の生産者の協力による豊富な品揃えで人気が高く、旬の農産物の情報発信や農家の新たな農業生産活動の原動力にもなっている。

地域住民総出で取り組むこの秋まつりは、単なるイベント開催にとどまらず、豊かな知識や技術を併せ持つ地域の人材や宝の詰まった地域資源を最大限に活用し、地区最大の交流活動として定着している。住民にとっても、地域のすばらしさを再認識できる大切な存在となっている。

### (4) 地域ぐるみで取り組む農業生産活動の維持や保全活動

中山間地域における耕作放棄地の発生防止や持続的な農業生産活動を行うため、平成12年度からは「中山間地域等直接支払制度」に2集落が取り組み、水路・農道等の維持管理を共同作業で行っている。

また、平成25年度からは「高山環境保全会」として「農地・水保全管理

支払交付金」の取組を新たにスタートし、非農家なども含めた地域住民の理解と協力を得ながら、農業用施設や農地の点検、草払いなどの維持管理、棚田の保全管理を行うなど、地域ぐるみで美しい農村の自然や景観を守っている。

さらに、将来にわたって農業生産活動の維持や農地保全を図るため、「NPO法人がんばろう高山」での作業受託を検討するなど、地域ぐるみで農地や農業を守り続ける体制整備に積極的に取り組むこととしている。

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) 地区交流センターを拠点に始まった若者世代との交流

地区内に唯一あった高山小学校が平成4年3月に閉校となり、その跡地を活用して地域内外の交流を図る施設「高山地区交流センター」が平成8年に開設された。

平成10年からは、交流センターを宿泊研修施設として活用してスポーツ少年団や大学サークルの合宿等の受入れを行っており、高山地区からの情報発信や利用者の口コミ等により、利用者はリピーターを中心に年々増加している。

特に、毎年1週間程度の夏合宿を行う鹿児島大学ギターサークルとの交流は10年以上も続き、練習の成果を披露する場として地域住民を招待する「サマーコンサートin高山」の開催により音楽を通じた交流につながっているほか、同大学の他サークルの合宿を新たに受け入れるなど、自然豊かな農村での生活体験や交流は若者世代にとって心に残る貴重な経験となっている。

また、この交流がきっかけとなり、「高山ふるさと秋まつり」には合宿で訪れた大学生たちがボランティアとして参加し、会場設営やイベント運営等に協力するなど継続的な交流へと発展している。



写真4 大学生によるコンサート

地区交流センターの開設が大きな契機となり、多くの子供たちや若者が滞在・交流することで、小学校閉校前の活気と活力が農村に戻り、地域住民の更なる活動への意欲向上と農村の活性化に寄与している。

#### (2) 「NPO法人がんばろう高山」の発足

棚田の保全や高齢者の送迎支援など喫緊の課題に直面する中、任意団体ではなく、社会的に信用のある団体として安定した運営や活動の活性化を図るため、平成25年3月に集落全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」が設立された。

設立の前年度から、話し合い活動の母体となった高山むらづくり協議会でNPO法人設立に係る勉強会を重ねるとともに、外部委員も含めた「高山再生プロジェクト会議」を設置し、住民アンケートやワークショップを通じて地域住民の合意形成や事業計画の作成に取り組み、多様な担い手の協働活動によって、地区コミュニティの再生と地域活性化に向けた新たな仕組みを構築することができた。

県内においても、集落全員を会員とするNPO法人の設立は極めて珍しく、地域住民に共通した「高山地区の再生と活性化を目指そう」との強い思いが実を結び、新たな共生・協働に向けたむらづくりの取組がスタートしている。

### (3) 高齢者を地域ぐるみで支える仕組みづくり

過疎・高齢化の進行や独居世帯の増加に伴い、買い物等の交通手段に困っている高齢者に対し、安心・安全な外出支援のサポートを地域ぐるみで行う仕組みづくりに取り組んでいる。

平成23年度から運行が途絶えていた移動販売車の復活について、福祉有償運送を手がける市内NPO法人と協働で検討を進めた結果、地区公民館名義の車を購入し、高齢者の運送体制を整備するとともに、買い物・温泉・食事を加えた企画ツアーの実施、地区内ルートの設定や費用分析により、地域で自立した運行体制に向けた検証を行ってきた。

現在は、「NPO法人がんばろう高山」に公用車を移管し、高齢者の買い物や社会参加の支援に向けた地区内運送サービスが構築され、地域ぐるみで支える介護・福祉の充実を図っている。

また、婦人部のボランティアによって、高齢独居世帯に対する弁当の配布や高齢者向け健康教室の開催を行うほか、高齢者が若い世代に「郷土の味」を伝承する郷土料理教室を開催するなど、高齢者に配慮した地域づくりや世代間交流を実践する独自の取組も行っている。

### (4) ふるさとを愛する思いがつなぐむらづくり活動への支援

年間を通じて開催される地区の行事やイベントには、地域住民だけでなく地区外に住む出身者やその子供・孫世代の多くが里帰りしている。地域ぐるみで行う大運動会、ミニバレー大会や花火大会は、地域住民の大きな楽しみであると同時に、お互いに元気で暮らしている様子を再確認し、情報共有する場となっている。

また、高山地区の出身者が平成13年に結成した「高山を愛する会」は、地区内の行事等に参加・協力するとともに、平成25年のNPO法人がんばろう高山設立時に寄付金を提供するなど、地域活性化に取り組む活動の心強い応援団となっている。